

2014

紙パックリサイクル

年次報告書

Paper carton recycling Annual report



捨てるよりリサイクルが
気持ちいい。



全国牛乳容器環境協議会

「紙パックリサイクル年次報告書2014」 発行にあたって

日ごろは全国牛乳容器環境協議会の活動に、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

紙面からで恐縮ではありますが、厚く御礼申し上げます。

さて、2011年の東日本大震災からの復興も原発事故後の修復も継続的な国家課題となっているなかで、わたしたちを取巻く環境は昨年大きく揺れ動きました。しかし、日本経済に関しましては先行きへの期待感が強まってきていると思います。

また、10月下旬には世界の酪農・乳業者が集う「IDF（国際酪農連盟）ワールドデューリーサミット2013」が横浜で開催、酪農・乳業を取り巻く環境問題についても議論されるなど、成功裏に幕を閉じました。

2008年に完全施行された改正容器包装リサイクル法は、現在見直しに向け検討が進められていますが、見直しの内容如何にかかわらず、わたしたちは「一人ひとりが環境を考え行動していく社会」を目指して、紙パックリサイクルの普及・拡大に向けた取組などを続けていかなければなりません。

紙パックリサイクルのための紙パック回収率は、調査開始以来順調に向上を続けてまいりましたが、ここ数年は伸び悩みとなり2011年度は初めて回収率が前年を下回るようになりました。

東日本大震災の影響もありましたが、わたしたちは紙パック回収率の低下が紙パックリサイクル活動の停滞につながるという危機感を持ちました。これを機に活動を強化すべく、従来のイベント分科会と広報分科会に加え2012年度に支部組織委員会と総務委員会という二つの委員会を新設し、四つの委員会といたしました。

この新しい委員会の活動は地域支援などを通して、紙パックリサイクルの普及・拡大を一層促進するためのものであり、新たな取組も開始いたしました。

これらの活動の効果もあり、2012年度の回収率は前年との比較で+1.3ポイントの44.2%となりました。

また、2013年度において、支部組織委員会では「クイズパネル」や「啓発トイレトペーパー」を新規で製作し、



全国牛乳容器環境協議会

会 長

山 登 正 夫

地域のステークホルダーのみなさまに活用いただくことなど、新しい取組を進めてまいりました。

総務委員会では市町村の環境担当部署を訪問し、より効果的な広報活動への意見交換や、啓発のための協働の取組などを行いました。

また、紙パック回収ボックスは当初目標の20,000か所への配布を完了し、一旦は配布休止としましたが、新たに改良型を製作し配布を再開いたしました。

あわせて各種調査を行い、より効率的な紙パックリサイクル促進の取組検討や、より正確な回収率の捕捉などを進めました。

その他の取組などの紹介を含め、1年間の活動内容として「紙パックリサイクル年次報告書2014」をここにまとめましたので、是非、お目通しいただき、ご意見・ご指導をお寄せいただければ幸いです。

2015年度に紙パック回収率50%以上を達成するために、市民団体の全国牛乳パックの再利用を考える連絡会様をはじめとしたさまざまなステークホルダーのみなさまとの協働を進めてまいります。会員のみなさまにおかれましても、今までもまして更なるお力添えをよろしくお願いいたします。

2014年1月

紙パック回収率向上のためのアクションプラン

全国牛乳容器環境協議会（以下 容環協）では、「2015年度に回収率50%以上」を目標として掲げ、紙パックの回収率・リサイクル率向上を目指しております。

具体的な取組は以下の通りです。

《目標》
紙パック回収率
2015年度 **50%以上**

- 自然の恵みを大切に、次世代の子どもたちが安心して暮らせる地球環境を継続的に維持していくため、紙パックリサイクルに係るすべての関係者との連携を強化し、回収率向上のための自主的活動を促進します。
- 再生可能な資源である紙パックを良質な資源として有効に活用することにより、資源の節約と環境負荷の削減を図ります。紙パックのリサイクルを通して資源の大切さを伝える活動を展開します。

【主な取組】

1.地域の回収力を高める場づくり

①紙パックリサイクル促進地域会議、牛乳パックリサイクル講習会の開催（全国牛乳パックの再利用を考える連絡会（以下 全国パック連）と共催）

②関係主体間の協議の場として意見交換会の開催

③紙パック回収活動の担い手の発掘（地域活動のリーダーとなる担い手の発掘）

④環境イベントへの出展（エコプロダクツ展、エコライフ・フェアなど）

⑤環の縁結びフォーラム（全国パック連主催）への協賛

CONTENTS

活動トピックス

「プラン2015」	2
環の縁結びフォーラム	3
紙パックリサイクル促進地域会議	4
リサイクル促進意見交換会	6
牛乳パックリサイクル講習会	7
牛乳パックリサイクル出前授業	8
エコライフ・フェア／エコプロダクツ2013	10
牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール	11
容環協の発行物	12
その他の活動	13

活動報告ダイジェスト

2012年度 紙パック回収率	14
2012年度 紙パックマテリアルフロー	16

2.家庭の紙パックの回収促進

①回収のきっかけづくり

②1000ml以外（500ml、200mlなど）の紙パック回収促進

③紙パック回収ボックスの提供による回収拠点づくり（全国パック連と協働）

④環境メッセージ広告を紙パック商品に掲載する環境キャンペーンの実施（供給事業者との協働）

⑤工場見学者に対する紙パックリサイクル啓発の実施

3.屋外や店舗で飲まれる紙パックの回収促進

①職場や高校・大学などでの紙パック回収の検討

②外食系店舗などで使われる紙パックの回収支援（全国パック連と協働）

4.教育や学習の場における活動の促進

①小学校での牛乳パックリサイクル出前授業の開催（全国パック連と共催）

②学校給食用牛乳紙パックのリサイクル推進

③DVD「牛乳パックン探検隊」の制作と配付（全国パック連と協働）

④牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクールへの協賛

5.リサイクルに向けたコミュニケーションの充実

①「牛乳パックリサイクル事例集」の活用（全国パック連と協働）

②飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査の実施

③市民のリサイクル意識・行動にかかわるWeb調査の実施

④ホームページ（容環協HP・牛乳パックン探検隊HP）の充実

⑤紙パックリサイクルを通じた国際的連携

2013年度活動報告

小売事業者のリサイクル状況	18
福祉作業所の回収状況	19
市町村回収・集団回収の状況	20
学校のリサイクル状況	22
再生紙メーカーのリサイクル状況	23

紙パックのリサイクル学

紙パックを取り巻くダブル循環ループ

国際的連携

EUの取組紹介

全国牛乳容器環境協議会の概要

あゆみ

会員一覧



「プラン2015」 3年目取組状況

わ 環の縁結びフォーラム

「プラン2015」 飲料用紙パックリサイクル行動計画 ～3年目取組報告～

アクションプランに基づいて、4つの委員会で活動推進してきました。

1.総務委員会

(1)回収率50%以上にに向けて

①紙パックリサイクルの基本調査ならびにWeb調査を実施し、課題抽出に取り組みました。
回収方法の多様化により、基本調査では把握できていなかった再生紙メーカーでの直接回収量をアンケート調査結果に基づき回収量に加えました。

②紙パックリサイクル促進地域会議の開催

今回は埼玉県、大阪府内の自治体を訪問し、紙パック回収の事前調査と市民へのリサイクル啓発状況の把握に努め、さいたま市と大阪市それぞれで地域会議を開催しました。その結果、自治体によって分別告知方法の違いや説明不足、記載間違いなどが抽出されました。

③改良型紙パック回収ボックスの投入

紙パックの投入口や取り出し方法を改良し、目に見えるきっかけづくりとして配付を再開し、更に狭い事務所や店舗での展開を考慮した小型化を開発中です。

(2)容環協年度予算執行状況の把握と規約・規則の改定案作成に取り組みました。

2.広報委員会

(1)普及啓発事業

①ホームページの拡充

訪問者数の減少傾向の歯止め対策として解析ツールを導入。訪問キーワードなどの現状を分析しました。

②啓発ツールの改訂

子ども向け冊子「牛乳パックのおはなし」の増刷に際し、内容の一部見直しと修正により、改訂第2版を発行。

③年次報告書2014の企画・編集に取り組みました。

(2)回収促進事業

①全国20事例集(第3版)は取材後の状況変化もあり、再取材を含めた刷新を図ることにしました。

②紙パックリサイクルを啓発・促進する環境メッセージとして、従来のものとリサイクルを強調し小さな表示面積にも対応できるデザインを会員へ告知しました。

3.イベント委員会

(1)紙パックリサイクルを活用した環境教育と普及啓発

①全国パック連と協働して、自治体他5か所でリサイクル講習会、小学校7校で出前授業に取り組みました。

②エコライフ・フェア、エコプロダクツ川越、エコプロダクツ2013など地域環境フェアにも出展しました。

(2)牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクールの企画

年々減少傾向にある応募数に対して、従来の応募要領配布先の他に、地域牛乳協会や地域教育委員会にも協力を要請し、新規ルート開拓に努めました。

4.支部組織委員会

(1)紙パックをめぐる諸活動の担い手の発掘と支援

①地域環境イベントなどの活性化を目的にリサイクル啓発用クイズパネル製作の他、啓発ツールや冊子類を配付し、参加拡大と支援に努めました。

②地域企業・サポーターの活動状況を即応性の高いメールマガジンの発行により、情報交流に取り組みました。

各委員会の活動は、月次運営委員会で報告され、成果確認や必要に応じて活動内容が修正され、活発な活動を目指しています。

国、各種団体、関連企業などが参加し、 循環型社会の形成に向けての取組紹介 や事例報告を行いました。

【環の縁結びフォーラム】

10月22日、東京中野区の中野サンプラザで全国パック連主催、容環協協賛、日本乳業協会後援による第7回「環の縁結びフォーラム」が開催され、「容器包装のリサイクルの効果と課題」をテーマに、国、地方自治体、関連団体、企業などから70名の方々が参加しました。

主催者挨拶として全国パック連・平井代表より、環の縁結びフォーラム開催の経緯、関係者との交流を培ってきた全国パック連の役割、商業施設での新たなキャンペーン取組などの紹介がありました。また来賓として、容環協・山登会長の挨拶では、容り法の見直しの中で紙パックの再商品化義務免除の継続や現行での役割分担の堅持などについて、容環協からの提言として説明がありました。

特別講演では、韓国酪農・乳加工技術院の李理事長が、「資源の節約とリサイクル促進に関する法律改正、その背景と主たる内容」と題し、10年を経過した韓国の生産者責任リサイクル制度の改革について説明され、その後、活発な質疑応答がなされました。

事例報告では、全国パック連より、「牛乳パックリサイクルにおける福祉作業所の実態調査」中間報告として、全国530か所の福祉施設では、牛乳パックの回収作業や

製品づくりなどが施設の仕事になっていること、大手スーパーでの独自リサイクルにより使用済み紙パックが入手しづらくなっている事例もあるなどの調査結果について、中間報告がありました。

相模原市からは、容器包装リサイクルの課題として、ベール品質の維持向上、市況による引き渡し価格の下落への歯止めなどが挙げられ、市民へのさらなる周知と協力依頼のため、出前授業など、地道な努力を続けることが効果的であることなどの報告がありました。

紙製容器包装リサイクル推進協議会からは、「紙製容器包装の3Rについて」と題し、紙の識別マーク付け義務や古紙ルートと容リルートで資源化されていること、容リルートでの再商品化では特定事業者が指定法人である容リ協会に再商品化を委託することなどの説明がありました。また、市区への回収量のアンケート調査、回収した紙製容器包装の組成分析などの活動紹介もあり、容り法見直しに関する提言内容で締めくくられました。

最後に、環境省リサイクル推進室より、「循環型社会の形成に向けて～容器包装リサイクル法の施行状況について」と題し、容り法見直しの年にあたり審議会で報告した容り法の施行状況、取組状況などを講演いただき、改正の趣旨として、3Rの考え方をより濃く反映すべきではないかということ、今後、審議会で関係者からのヒアリングが順次実施されることなどの説明がありました。

それぞれ充実した内容で進行し、続く懇親会でも情報交換が熱心に行われ、今年も実りあるフォーラムとなりました。



主催者挨拶:全国パック連 平井代表



特別講演:韓国酪農・乳加工技術院 李 理事長



紙パックリサイクル促進地域会議



各地域での情報交換を通じて、 リサイクルの促進を図る 地域会議を開催。

「紙パックリサイクル促進地域会議」は、地域ごとの現状と課題を把握することで、紙パックリサイクルの拡大を図ることを目的としています。2013年は埼玉・大阪の2地域で開催しました。

両会議とも、国、自治体、市民団体や関係事業者など多彩なメンバーの参加があり、それぞれの活動報告や問題提起がされています。この会議の中で、参加者が相互に理解を深め、情報交換をすることで、紙パックのリサイクルをよりいっそう推進していくことを確認しました。

紙パックリサイクル促進地域会議 in 埼玉／さいたま市

◆開催日 2013年7月5日
◆参加者 農林水産省、環境省、自治体、市民団体、乳業メーカー、製紙・容器メーカー、回収事業者など計52名

【主な報告や問題提起】

- ご来賓挨拶で農林水産省の方からは、2010年度の紙パックリサイクル回収率の目標値は50%だったが、実績は43.6%と目標に達していなかった。今後もさらに高めの目標を目指してほしいとのお話をいただきました。
- 容環協からは、2015年度の紙パック回収率50%以上を目標に活動を進めている自主行動計画「PLAN2015」の5つの柱として、①地域の回収力を高める場づくり、②家庭の紙パック回収促進、③屋外・店舗での紙パック回収促進、④教育・学習の場における活動の促進、⑤リサイクルに向けたコミュニケーションの充実、を掲げており、集めるだけでなく再生品の利用促進にも努めていきたいとの取組報告を行いました。

- 自治体からは、回収した紙パックがどのように再利用されるかを子どもたちに伝えることにより、回収率の向上を図る必要性などが報告されました。
- 全国パック連からは、紙パックの現状について、再生して使う側の製紙メーカーの処理能力に対して、回収率が非常に低く、良質な資源である紙パックの6割近くが再生利用されていないという、もったいない状況であることが報告されました。
- 市民団体からは、古紙利用の基本は分別であり、その啓発活動を進めているとの報告がありました。
- 古紙回収業者・古紙問屋からは、回収現場での持ち去りや、リサイクルルートの複雑化による回収の停滞などの問題の指摘がありました。
- 製紙メーカーからは、現在、原料となる古紙の50%は輸入に頼っているため、今後も国内での回収に尽力したいとの報告がありました。

今後も更なる分別の徹底、子どもたちへの啓発活動の強化、運動自体の再構築の必要性などが窺える地域会議となりました。



地域会議 in 埼玉の様子

紙パックリサイクル促進地域会議 in 大阪／大阪市

◆開催日 2013年11月13日
◆参加者 農林水産省近畿農政局、自治体、市民団体、調査会社、事業者など計50名

【主な報告や問題提起】

- 近畿農政局からは「飲料用紙容器は容り法施行前から有価物。50%の目標に向けて、関係する方々の協力で、是非とも達成してほしい」とのご挨拶がありました。
- 調査会社での消費者Web調査の結果から、再活用している家庭や他の古紙に排出している人が多いこと、ごみに出してしまう理由として手間が掛かることや少量意識があるとの報告がありました。
- 容環協からは2011年度紙パック回収率が42.9%、2015年度に回収率50%以上達成への「プラン2015」を推進中であるとの説明がありました。
- 大阪市では10月から家庭ごみでの古紙の分別収集を市内全域に拡大したこと、市民啓発として紙パック工作教室や紙すき交流センターの協力などで市民啓発を実施していると状況報告がありました。
- 公益財団法人千里リサイクルプラザでは、市民研究員による紙すき教室や小学校対象の出前授業を実施しており、楽しむだけでなく、3Rの重要性、紙パックの品質の良さや自然環境における大切な役割をもっていることなども教えているとのことでした。
- 全国パック連からは、「紙パックのリサイクルは他の容器（びん・缶・ペットボトル）に比べて自治体によるコミュニ



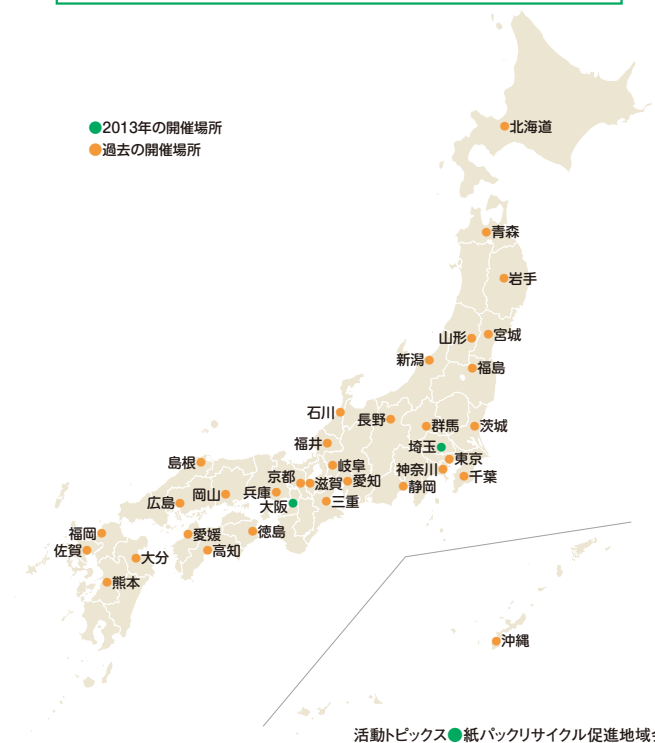
地域会議 in 大阪の様子

ケーションの優先度が最近落ちて来ているのでは？」と問題提起がありました。また、リサイクル啓発活動をショッピングモールやスーパーマーケットなどにも広げ、紙すき実演は有効な啓発手段であるとの報告がありました。

- 紙すき交流センターからは、1日に5,000枚程の牛乳・酒パックを原料とした紙すきが障がい者にとっても有意義な仕事になっている。紙すき製品の販売アイデアなどの提案を頂きたいとの報告がありました。
- 関西ミルクロードの会より、主に授産施設を中心とした会での牛乳パック回収量が、2011年度709トン、2012年度713トンと実績報告がありました。
- 古紙回収業者・古紙問屋からは、紙パックは他の古紙と比べて少量で、洗って開いて乾かす手間がかかるため、熱意を持った取組が必要との意見がありました。
- 再生紙会社からは、最近紙パック回収量が減少しているとの印象と、外食産業などとの協力や消費者への啓発を高めていく必要があるとの意見がありました。

授産施設でのリサイクル活躍が盛んな地域への応援と効率的なリサイクル啓発活動の強化が窺えた地域会議となりました。

地域会議の開催場所





リサイクル促進意見交換会

関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【創立20周年記念シンポジウム】2月7日

1992年の発足から20周年を迎えた容環協が記念シンポジウムを開催し、国、自治体、NPO、関係業者、OB、市民の皆様など120名以上にご参加いただき、「今後の牛乳紙パックのリサイクルをどうするか」のテーマを中心に、基調講演、事例報告、調査報告、パネルディスカッションなどを行いました。

最初に容環協・山登会長の挨拶として、昨年度は紙パックの回収調査開始以来初めて回収率低下となったが、自主行動計画『プラン2015』のもと、2015年度の回収率50%以上を目標に活動を進めていることが報告され、目標達成に向けて各関係者への引き続きの支援・協力のお願がありました。

環境省の方からは、「循環基本計画の見直しと容器包装リサイクル法について」と題した基調講演の中で、5年を経過した容リ法のこれまでの運用と評価、また今後の改正・見直しでの論点としてリデュース・リユースの促進、分別収集・選別保管、市町村と事業者の責任範囲の検討などで、関係省庁は関係業界との意見交換をしながら取組を進めていきたいとの見解がありました。

全国パック連・平井代表からは、民間と事業者の連携という他の業界にはあまりないスタイルの良い部分を

継続し、今後も容環協とパートナーとして発展していきたいとの報告がありました。

容環協からは、2011年度の回収率低下の原因として、東日本大震災の影響のほか、大都市を含めて紙パックを雑がみなどとして回収する市町村が増えていることが考えられること、また北欧視察で、森林の管理実態として育苗・植樹そして育成まで組織的に管理実践され、森林面積が増加傾向にあることを見聞きし、紙パックの原紙供給について持続可能性が確認できたとの報告を行いました。さらに、自主行動計画『プラン2015』のための容環協新組織体制について、発表を行いました。

後半のパネルディスカッションでは、自治体担当者や関連業界団体、製紙会社などから、それぞれの取組事例が報告された後、資源としての紙パック独特の特徴、「洗って、開いて、乾かして」と手間がかかるが、ニーズは非常に高いという点をどのように伝えるか、また回収・再生の流れのシステムづくりがポイントであることなどが意見交換されました。



主催者挨拶：容環協 山登会長



パネルディスカッション、パネラーの方々

牛乳パックリサイクル講習会

現状を知っていただき、
実際のリサイクルを体験する
楽しい講習会です。

紙パックリサイクルの現状や、紙の原料となる森林の管理状況を説明するとともに、回収ルールの体験を通して牛乳パックの回収に関心を持っていただくため、「牛乳パックリサイクル講習会」を毎年開催しています。2013年は、下記の5か所で開催しました。

【中野区】7月27日

子どもたちや保護者を対象としたイベント『ZEROからはじめようエコプロジェクト』内で開催された講習会には、小学生20名、保護者13名の方が参加。牛乳パックの手開き体験では、未経験の方が悪戦苦闘されていましたが、体験することの大切さを再認識しました。

【相模原市】7月31日

相模原市「リサイクルスクエア」にて、容環協と全国パック連が「環境講義と紙すき体験」を、市の環境経済局が「ごみ収集体験」を受け持つ2部構成で開催された「親子リサイクル体験教室」。紙すき体験の後、実際に、ごみ収集車への同乗・排出などを体験することができました。



森林管理やリサイクルの講義風景（中野区）

【西東京市】8月7日

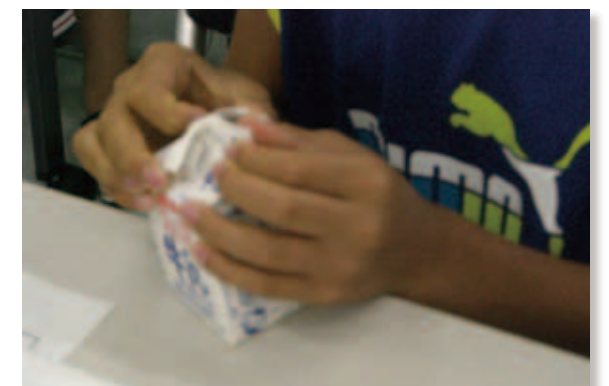
西東京市では、今年で5回目の講習会がエコプラザ西東京のイベント「夏休み自由研究2013」の一環として小学4～6年生を対象に行われ、児童36名と保護者4名が参加。お目当ての手すきはがきづくりでは、全員が「マイ手すきはがき」を完成させました。

【さいたま市】9月14日

昨年12月以来となった浦和区の針ヶ谷小学校での講習会は、前回同様、容環協専門委員1名、OB2名、協力者1名の計4名体制で開催。さいたま市放課後子ども教室の方々にもご協力いただき、親子合わせて10名の参加者に理解を深めていただきました。

【松江市】10月9日

出前授業に赴いた鹿島東小学校は、山陰沖を通過した台風24号の影響で当日は臨時休校となってしまいました。小学校の計らいで、当日出勤の先生と近隣の保育園の保育士の方々にお集まりいただき、今後の環境教育に役立てればと先生方への「リサイクル講習会」となりました。



牛乳パック手開き奮闘中！（西東京市）



牛乳パックリサイクル出前授業

子どもたちの学びの場に。
毎年好評の「出前授業」を
全国の小学校で開催。

2013年も全国の小学校で、全国パック連と連携して「牛乳パックリサイクル出前授業」を開催しました。

【神奈川県 横浜市立日枝小学校】1月22日

日枝小学校での出前授業は、4年1組「ともだちの活動」の一環として、児童32名、保護者21名が参加されました。同校で行われている「総合活動」での4年1組の年間テーマは「めざせ!紙好き名人!!」。すでに紙すき体験のある児童たちは、あらためて手すきはがきづくりで一度にすくうパルプの量などを工夫して、とてもきれいな出来栄でした。

【栃木県 茂木町立茂木小学校】5月31日

昨年11月に1年生を対象に出前授業を行った茂木小。今年は5年生50名と先生3名が参加され、皆、熱心に学んでいました。また、「紙パックリサイクルほんとはなし」を町内に配付していただいている茂木町環境課の取材もありました。後日、今回受講した5年生が、4年生に学んだ内容を伝える企画が進行中との嬉しいお知らせが届きました。



手すきはがきが完成! (横浜市立日枝小学校)

【広島県 広島市立牛田新町小学校】6月12日

神田山の中腹に位置する牛田新町小学校の出前授業は、小学6年生2クラス61名を対象に行い、多くの保護者の方も参観されました。手すきはがきづくりでは、途中アイロンの電源が切れるハプニングもありましたが、子どもたちは出来上がったハガキを見せ合って楽しんでいました。新しく制作した冊子「もったいないものがたり」も配付しました。

【埼玉県 川口市立戸塚南小学校】9月30日

埼玉県川口市で行われている「環境出前授業」。今回は「リサイクルの話」をテーマに、アルミ缶リサイクル協会、スチール缶リサイクル協会、容環協が、小学4年生4クラス(約160名)に講義を行いました。講義ではDVD「牛乳パックン探検隊」視聴の前後にクイズを出題。日頃の学習成果から、正解率はとても高くなりました。



「リサイクルの話」講義の様子 (茂木町立茂木小学校)

【栃木県 芳賀町立芳賀南小学校】11月9日

芳賀南小学校の子どもたちはとても元気で、自然いっぱいの環境のもと、スポーツや美術・音楽の分野でも活躍しています。出前授業は土曜日にもかかわらず、4年生の児童40名と多数の保護者の方々、2名の先生方が参加。紙すき体験では、材料になるドロドロになった紙パックパルプに最初は恐る恐るだった子どもたちも、指導員のもと、手すきはがきをしっかり完成させました。

【富山県 富山市立新庄小学校】11月19日

「おはようございます!」と子どもたちの元気のいい挨拶で迎えられた新庄小学校。給食の牛乳パックも洗って乾かし、リサイクルしているそうです。出前授業は小学4年生2クラス71名(内3名欠席)が出席、クイズを交えた授業の後、手すきはがきづくりを体験してもらいました。約2時間弱の出前授業でしたが、地元新聞社・ケーブルテレビ局の取材や給食の牛乳を供給しているとやまアルペン乳業株式会社の方の参加も得て、楽しい授業となりました。



牛乳パック洗って・乾かして! (富山市立新庄小学校)

【香川県 三豊市立松崎小学校】11月28日

JR詫間駅近くの小高い丘にある松崎小学校は、現代的な鉄筋校舎ですが、明治初期から続く伝統があります。出前授業は4年生1クラス29名を対象に、三豊市役所から2名、また給食の牛乳を納める四国明治乳業株式会社の方も参加され、大勢の大人に囲まれた中で行われましたが、子どもたちは物怖じせず、のびのびと授業を受けていました。



出前授業「御礼の手紙をいただきました (広島市立牛田新町小)



みんな作品を持って、「ハイ、チーズ!」(三豊市立松崎小学校)

エコライフ・フェア／エコプロダクツ2013

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール



リサイクルの大切さを啓発。
紙パックの手開きや
紙すきを体験しました。

【エコライフ・フェア2013】6月1日、2日

1990年以来、環境省が中心となり、東京・渋谷の代々木公園を会場に、環境の日(6月5日)前後に開催されているエコライフ・フェア。今年は全体の来場者数が約78,000人と昨年を上回り、容環協も全国パック連との協働で7回目の出展を行って、約460人のお客様をお迎えしました。

展示ブースでは、市民団体“たんぱぼ”の協力を得て、手すきはがきや紙パックを使った小物づくりを実演し、順番待ちをお願いするほど盛況でした。また、特設の大型テントでは、合計4回、約40名の方々に、牛乳を飲んでいただきながらワークショップを実施して、手開きをしていただいた紙パックと、紙パックを再生原料にしたボックスティッシュと交換し、リサイクルを実感していただきました。



展示ブースにて、環境パネル説明



特設テントにて、手開き実演風景

連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロダクツ2013】12月12日～14日

1999年から開催されている「エコプロダクツ展」は国内最大級の環境展示会であり、今回で15回目の開催となりました。容環協は牛乳パック再利用マーク普及促進協議会と共同出展し、今年で連続10回目という「節目」の出展となりました。

展示会の来場者数は169,076人と昨年を割り込んでしまいましたが、容環協ブースのイベント参加者は昨年の1,502人から1,722人と増えています。ワークショップ「牛乳を飲んで紙パック手開き体験」、恒例となった全国パック連の協力による「手すきはがきづくり体験」、環境パネルラリー「『もったいないものがたり』による環境・リサイクルの啓発」などのイベントを行い、連日来場者で賑わいました。



ワークショップ風景



リサイクル啓発コーナー

秦 まりなさんの作品
「つまみ細工のかんざし」が
みごと最優秀賞に。

13回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2013」には全国の小学校より2,856作品の応募がありました。いずれも秀作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞作品7点が選ばれました。おめでとうございます。



最優秀賞作品「つまみ細工のかんざし」
秦 まりなさん

《受賞作品》

- ◆最優秀賞 『つまみ細工のかんざし』
秦 まりなさん(和歌山市立三田小学校6年)
- ◆優秀賞 『パックのブック』
三浦 舞子さん(郡上市立川合小学校1年)
- ◆優秀賞 『エコエプロン』
南部 綾華さん(浦谷町立浦谷第一小学校5年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
『牛乳パックじょうろ』
野場 千裕さん(川口市立本町小学校2年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
『花がさ』
鈴木 廉二さん(山形市立桜田小学校2年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞
『くじゃくのちょきんばこ』
中澤 花衣来さん(川口市立朝日西小学校1年)
- ◆日本乳業協会賞 『幸せ(四合わせ)の青い鳥』
竹下 義峻さん(さいたま市立道祖土小学校6年)

最優秀賞は和歌山県の小学校6年生秦さんの作品「つまみ細工のかんざし」です。自らの十三参りの行事に着想を得て、伝統的なかんざし製法に牛乳パックの特性を上手に組み合わせた精緻な作品です。秦さんは「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2012」の全国牛乳容器環境協議会賞に続き、今回見事最優秀賞に輝きました。

受賞作の表彰式は「エコプロダクツ2013」の容環協ブースにて行い、審査委員長の東京国立博物館・銭谷館長、実行委員長の容環協・山登会長はじめ審査委員の方々から、受賞者にそれぞれ賞状・盾・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の小学生向けホームページ「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。



最優秀賞受賞の秦 まりなさん



エコプロダクツ2013で行われた表彰式



容環協の発行物

紙パックの特性やリサイクルを
わかりやすく学べるDVDや
リーフレットを提供しています。

DVD「牛乳パックン探検隊」

容環協の小学生向けホームページ「牛乳パックン探検隊」の内容の詳細版として、子どもたちが環境を考え、自ら行動することの大切さを学ぶ教材となるDVD「牛乳パックン探検隊」を準備しています。お申し込みいただいた学校・団体には無料配布しています。



DVD「牛乳パックン探検隊」

「紙パックリサイクルほんとのななし」

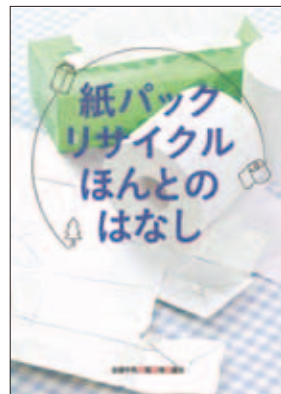
紙パックのリサイクル向上のための活動を進める中で日頃よく質問されることが疑問に思われていることを中心に、紙パックが環境にとってとてもやさしいこと、他の紙製品と分別しないとせっかくの資源が有効に活用できなくなってしまうことなどを誰にでもわかりやすいようにイラストを多くして解説しています。

「もったいないものがたり」

「紙パックリサイクルほんとのななし」を牛乳パックンのイラストで親しみやすく編集した、子ども向けのリーフレットを作成しました。



「もったいないものがたり」



「紙パックリサイクルほんとのななし」

容環協ではリサイクルから
地球環境を考えられるように各種
の刊行物を発刊しています。

書籍「紙パック宣言」

紙パックの特性やリサイクル活動などを詳しく解説した書籍で、リサイクルの意識を深めながら地球の未来へ向けた提言となるような内容となっています。

著者に(株)エコプスの猪瀬代表、全国パック連の平井代表のほか、容環協からも7名参画しました。

「牛乳パックリサイクル全国20事例集」第3集

紙パックの回収システムは店頭回収、市町村回収、集団回収の3ルートが確立されていますが、分別回収には地域への理解や工夫が必要です。この事例集は全国の市民団体、自治体、事業者各分野での実践事例を紹介してリサイクルのさまざまなシーンでの課題解決のヒントとなることを目的として編集しています。



書籍「紙パック宣言」
日本評論社



第3集となった「全国20事例集」

その他の活動

全国パック連と協働で
商業施設との連携にも
取り組みました。

【商業施設「アリオ橋本」との連携】

3月9日、「相模原ごみDE71大作戦」の一環として、市内の商業施設「アリオ橋本」でワークショップ「牛乳パックでグリーティングカードをつくろう!」を開催。120名を超える参加者の中、中学生たちが作ったホワイトデー用のハート入りカードが印象的でした。



相模原市ごみ分別キャラクター「レモンちゃん」&「シンゲンジャー」

【商業施設「ララガーデン長町」との連携】

9月22日、23日の両日、仙台市ララガーデン長町の「ララ秋の文化祭」において、東北初の紙パックリサイクル促進キャンペーンとして「紙すき体験教室」を開催。多くの親子連れの方々にご参加いただき、「紙パックリサイクル交換会」「紙パックアート展」「エコリサイクルパネル展」も行われ、大変賑やかなイベントとなりました。



紙パックアート展「未来都市長町」

回収ボックスが新しくなりました。

【「紙パック回収ボックス」の改良による活動推進】

容環協は全国パック連とともに紙パックの回収にご協力いただく方と回収拠点の拡大のために、扱いやすい回収ボックスを作成し、無料配布する活動を2001年より進めています。

全国で牛乳パックの回収を進めていただく回収団体の皆様のご支援・ご協力により、2013年3月末時点で20,700か所にまで達しました。

この度、皆様からいただいた声を参考に、回収拠点でしっかり回収出来るよう、より使い勝手の良い回収ボックスに見直し、2013年4月から配布受付を再開しました。改良した点として、本体と上部蓋の2パーツ構造にすることで、取り出しやすく、あふれにくいものに工夫しました。今後も、紙パック回収率の向上のための活動を進めていきます。

申し込み用紙は容環協ホームページの「紙パック回収ボックス」に掲載しています。



容環協HP <http://www.yokankyo.jp>

牛乳パックン探検隊HP <http://www.packun.jp>



2012年度 紙パック回収率

2012年度の紙パック回収率は
44.2%でした。

紙パックリサイクルに関する情報の収集と社会への提供のために、1995年から実施している「飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査」が、2013年も6月～10月に実施され、2012年度のリサイクル状況が明らかになりました。

2012年度の紙パック全体の回収率は44.2%（前年度比で1.3ポイント増）、使用済紙パック回収率は33.8%（同1.3ポイント増）となりました。

近年の使用済紙パック回収ルートの多様化に伴い、2012年度は、古紙原料問屋や再生紙メーカーによる直接回収を調査対象に加えました。これらの回収量はマテリアルフローの「集団回収等」に含めています。

※2012年度の調査では、紙パックメーカー9社・飲料メーカー315社・1,735市町村区・小学校2,110校・スーパーマーケット等1,000社・市民団体および福祉作業所6カ所・再生紙メーカー33社等をアンケート調査対象に、また4カ所をヒアリング調査対象としました。なお、福島原発事故の影響により、一部地域について実施を控えています。
※紙パック製造工程や飲料工場の飲料充填前に発生した不良原紙、端材などの使用されない紙パックを損紙、または産業損紙と呼んでいます。
※店舗、事業所、学校、家庭などで発生した紙パックを古紙と呼んでいます。

2012年度の紙パック回収率

紙パック回収率
（産業損紙・古紙を含む）

44.2%

（2011年度 42.9%）

=国内紙パック回収量÷紙パック原紙使用量
=107.5千トン / 242.9千トン

使用済紙パック回収率
（使用された紙パック）

33.8%

（2011年度 32.5%）

=使用済紙パック回収量÷飲料メーカー紙パック出荷量
=69.1千トン / 204.3千トン

自治体の紙パック取引価格は
高値を保っています。

紙パック古紙は、紙の繊維が長く強いことなどから、良質の再生紙原料に位置付けられており、比較的高値で取引されています。

紙パックの取引価格は、自治体ごとに決め方がさまざまなので、標準的な価格を出すのは困難です。ここでは紙パック単独の価格で、取引価格以外の付加条件がつかないものを対象に、相手先に来てもらう引渡価格と、相手先へ持ち込んだときの持込価格に分けて、市町村回収と集団回収の平均を集計しました。

これらの回収の主な取引先は古紙回収業者と古紙原料問屋です。市町村や集団回収の取引価格は引き続き高値を保っています。

紙パック古紙の平均取引価格

年度			2009	2010	2011	2012
市町村回収	古紙回収業者	引渡価格	6.2	7.5	7.1	6.8
		持込価格	5.4	6.9	7.5	6.7
	古紙原料問屋	引渡価格	7.0	8.9	9.4	9.2
		持込価格	7.0	8.0	8.7	8.2
	製紙メーカー	引渡価格	8.8	12.3	10.8	9.4
		持込価格	8.0	10.2	10.3	10.9
集団回収	(取引先不問)	引渡価格	4.3	5.2	5.2	4.9
		持込価格	6.9	5.1	5.9	5.3

(円/kg)

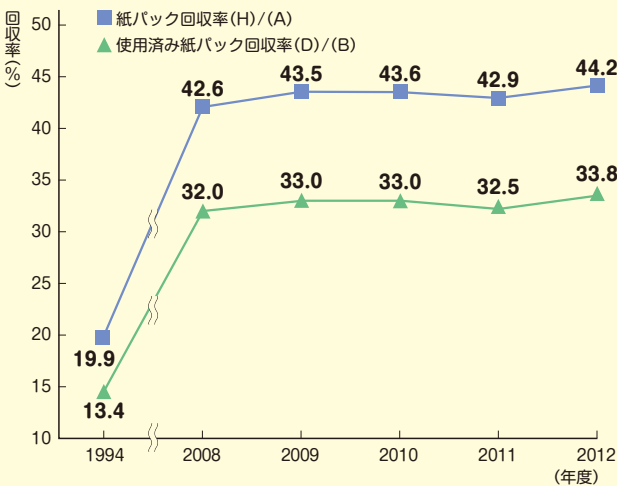
2012年度の紙パック回収量は
107.5千トンでした。

右の図のように、紙パック回収率は2011年度に調査開始以来で初めて減少しましたが、2012年度は再び増加に転じました。

2012年度の国内紙パック回収量は107.5千トンで前年度より1.7千トン(1.6%)増加しました。また、使用済紙パック回収量は69.1千トンで1.5千トン(2.1%)増加しました。

これまでの紙パック使用量や回収量などの推移は「主要データの推移」にまとめています。

紙パック回収率の推移



主要データの推移 (千トン)

区 分	1994年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	対前年増加率
飲料用紙パック使用量(A)	216.0	251.0	244.3	246.8	246.6	242.9	-1.5%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	37.1	35.9	37.3	35.1	36.2	3.2%
飲料メーカー産業損紙等発生量	-	3.0	2.6	2.1	3.3	2.4	-27.7%
飲料メーカー飲料用紙パック出荷量(B)	197.9	210.9	205.8	207.3	208.3	204.3	-1.9%
家庭系(C)	168.7	189.3	184.3	184.6	184.8	180.3	-2.4%
飲食店・自販機等(事業系)	18.5	9.8	9.7	10.8	11.7	12.1	3.8%
学乳(事業系)	10.7	11.8	11.8	11.8	11.8	11.9	0.6%
使用済紙パック回収量(D)=(E)+(F)	26.5	67.4	68.0	68.4	67.7	69.1	2.1%
家庭系回収量(E)	25.9	56.7	57.3	56.6	56.2	57.2	1.9%
店頭回収量	13.8	33.4	34.5	33.6	33.0	32.6	-1.1%
市町村回収量	4.3	14.4	13.9	14.1	13.9	13.7	-1.1%
集団回収等量	7.8	8.9	8.9	8.9	9.3	10.9	16.9%
事業系回収量(F)	0.6	10.7	10.7	11.8	11.5	11.9	3.4%
学乳紙パック回収量	0.6	9.3	9.3	9.4	9.2	9.6	4.2%
飲食店・自販機等	-	1.4	1.4	2.3	2.3	2.3	0.0%
産業損紙・古紙紙パック回収量(G)	16.5	39.7	38.2	39.3	38.1	38.4	0.8%
紙パックメーカー回収量	16.5	37.1	35.9	37.3	35.1	36.2	3.2%
飲料メーカー回収量	-	2.6	2.3	1.9	3.0	2.2	-27.5%
国内紙パック回収量(H)=(D)+(G)	43.0	107.1	106.2	107.6	105.7	107.5	1.6%
紙パック古紙輸入量	-	13.9	10.9	12.7	14.0	11.4	-18.9%
紙パック総受入量	43.0	120.9	117.1	120.3	119.7	118.8	-0.8%
紙パック再資源化量	30.1	93.8	93.2	96.3	95.7	95.2	-0.6%
紙パック回収率(H)/(A)	19.9%	42.6%	43.5%	43.6%	42.9%	44.2%	1.3ポイント
使用済紙パック回収率(D)/(B)	13.4%	32.0%	33.0%	33.0%	32.5%	33.8%	1.3ポイント
家庭系使用済紙パック回収率(E)/(C)	15.4%	30.0%	31.1%	30.6%	30.4%	31.7%	1.3ポイント

※紙パック再資源化量=紙パック総受入量×歩留率。歩留率は、2001年度以降についてはアンケート調査により求めています。

※1994年度の産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含みます。

※2004年度より事業系紙パック回収量をアンケート調査に基づいて求めています。

※2005年度に学乳紙パックの重量の見直しを行い、他の項目の値も一部影響を受けています。

※100トン未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。また、同じ理由により表中の数値から回収率や前年度比を計算すると合わない箇所があります。

2012年度 紙パックマテリアルフロー

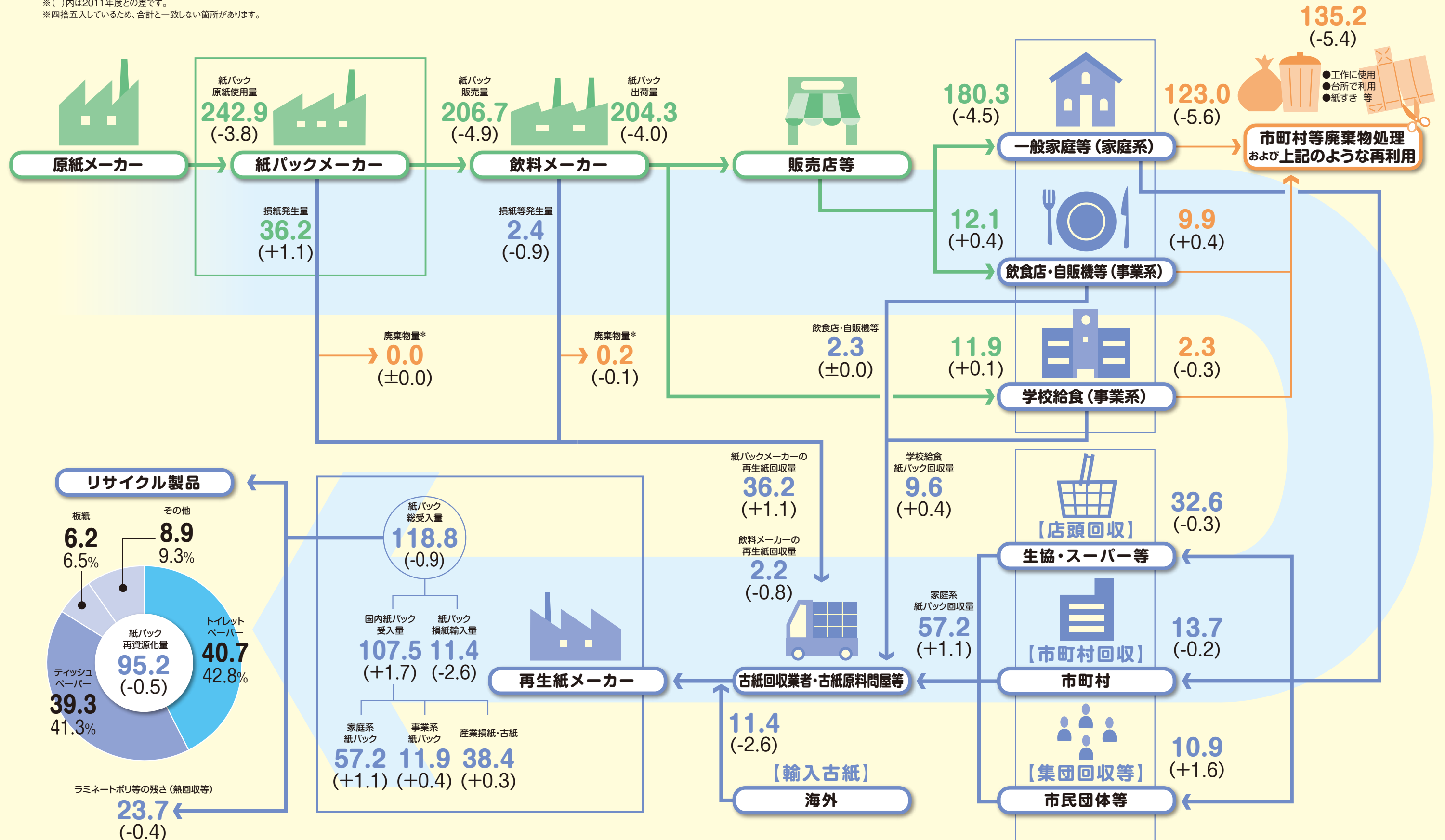


2012年度の紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン

※()内は2011年度との差です。

※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。



* 廃棄物量には熱回収されるものも含む。



小売事業者のリサイクル状況

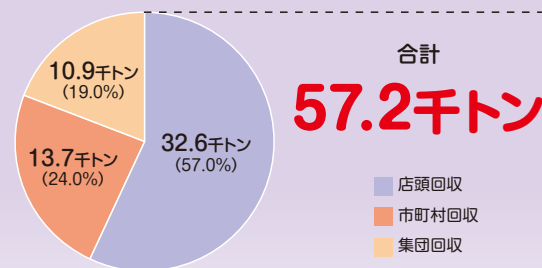
スーパーマーケットなどの
店頭回収BOXでは多くの紙パックが
回収されています。

家庭からの紙パック回収量の6割近くを占めているのがスーパーマーケットなどの店頭回収BOXに設置された回収ボックスからの回収です。

店頭回収の調査は、日本チェーンストア協会と日本生活協同組合連合会からの提供情報のほか、独自調査により行っています。2012年度の店頭回収量は32.6千トンで前年度より0.3千トン減少しました。

なお、小売形態の変化に合わせて、一部のドラッグストアについても調査を行っています。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量 (推計値)



取り組んでいます! リサイクル

イズミヤ株式会社

(本部: 大阪府大阪市)

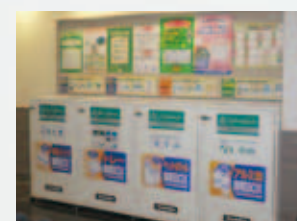
取組事例

イズミヤ株式会社は、関西地区を中心に91店舗(2013年10月末現在)を展開するチェーンストアです。環境方針を掲げ、環境マネジメントシステムを導入して環境活動に取り組んでいます。

「good-i ハートフル」は、生産から消費・廃棄までのライフサイクル全体を通して、環境負荷の低減や人へのやさしさを追求した環境配慮型商品です。お客様の声に耳を傾けながら、リサイクル原料を使用した商品や、自然環境を汚さない商品、アトピーや敏感肌の人にもやさしい商品などを、独自の基準に従って開発しています。

また、不要になったリサイクル資源をお客様にお持ちいただき、「回収した資源を再び商品化して店頭に並べる」という資源循環のシステムを構築しています。食品を取り扱う全店舗に牛乳パック、アルミ缶、ペットボトル、トレーのリサイクル回収ボックスを設置しており、紙パックの2012年度の回収量は297トンでした。

回収した容器類は、グループ会社である株式会社カンソーの津守エコセンターやリサイクル業者で再資源化され、ティッシュペーパーやカーペットなどの商品として生まれ変わっています。



回収ボックス設置様子
(西宮ガーデンズ店)



回収ボックス設置様子
(松原中央店)

福祉作業所の回収状況

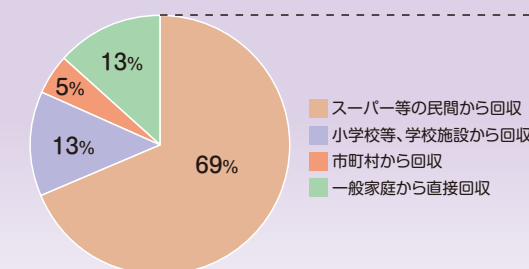
紙パックの回収以外に
紙パックの手すきはがきなど
製品づくりを行っています。

福祉作業所や市民団体の回収元は、スーパーマーケットなどの店頭回収ボックスが最も多く、次いで一般家庭からの回収と小学校などの学校施設からの回収、さらに市町村からと多様です。2012年度の基本調査の回収量は例年と同じ約1千トンでした。

多くの福祉作業所では、紙パックの回収以外にも紙パックを再利用した手すきはがきやしおりなどの製品づくりを行っています。

なお、マテリアルフローの回収量は、全国パック連による福祉作業所の実態調査も加味しています。

福祉作業所、市民団体の紙パック回収量に占める回収先割合



取り組んでいます! リサイクル

社会福祉法人ひびき福祉会 アクティビティセンターひびき

(大阪府東大阪市)

取組事例

ひびき福祉会は1977年に障がいのある方たちの働く場として、無認可共同作業所を開設して以来、1984年に法人認可されてからも、一貫して障がいのある人こそ施設の主人公として事業を進めてきました。[創造][安全][感謝][正義][連帯]の5つの言葉を基本的精神として、障がい者の福祉事業を推進しています。

ひびき福祉会の事業所である「アクティビティセンターひびき」では、障がいのある方に対して作業を行うことにより自己実現ができるように努めており、その一環として紙パックの分別作業を行っています。

週1回(夏場は2回)協力していただいているスーパーマーケットを2トントラックで回り、紙パックを回収。回収した紙パックには、トレーやアルミ付紙パックなどが混ざっているため、紙パックとその他のゴミに分別します。毎月約10トンの紙パックを有価物として古紙問屋さんに届けリサイクルしています。



紙パック分別作業風景



トラックへ積み込み!



市町村回収・集団回収の状況

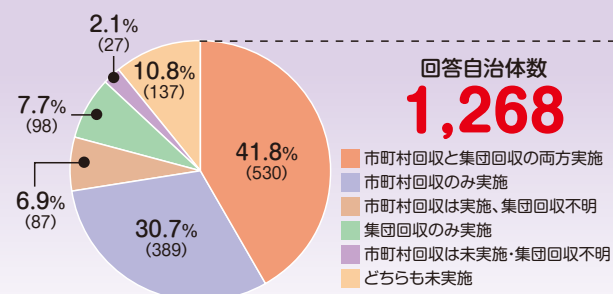
紙パックの回収は
全国の約9割の自治体で
実施されています。

2012年度調査は全国1,742市町村区のうち、福島原発事故の影響が残る7町村を除いた1,735の自治体を対象に実施し、1,268市町村区から回答を得ました。回答人口比率は日本全体の88.8%になります。

調査では、市町村区や一部事務組合などが行う収集を「市町村回収」、市町村区に登録された住民団体による回収を「集団回収」としています。

市町村回収と集団回収の実施率は前年度とほぼ同じで、市町村回収が79%、集団回収が不明を除いて50%でした。市町村回収と集団回収のいずれかを実施しているのは87%です。全国の約9割の自治体で紙パックの回収に取り組んでいることになります。

市町村回収と集団回収の実施率



自治体の取組によって
22.4千トンの紙パックが
回収されました。

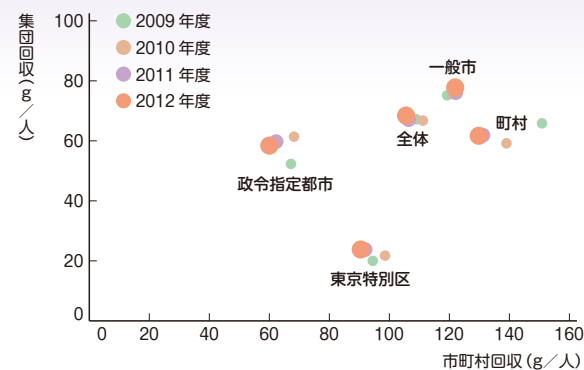
市町村回収量と集団回収量は、都市類型別に「一般市」「政令指定都市」「東京特別区」「町村」の4つに分けて推計しています。2012年度は市町村回収量が13.7千トン、集団回収量が8.7千トンで、合計では22.4千トンでした。

1人当たりの回収量(原単位)をみると、全国人口の6割以上を占める一般市の回収量がここ数年安定しているため、全体では大きな変動は見られません。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

		全体	一般市	政令指定都市	東京特別区	町村
市町村回収	推計量(千トン)	13.7	9.8	1.6	0.8	1.5
	都市類型別回収推計量比率	100%	72%	12%	6%	11%
	1人あたりの回収量(g/人)	108	123	60	91	130
集団回収	推計量(千トン)	8.7	6.2	1.5	0.2	0.7
	都市類型別回収推計量比率	100%	72%	17%	2%	8%
	1人あたりの回収量(g/人)	68	78	57	23	63
都市類型人口(百万人)		127	80	27	9	12

市町村回収と集団回収の都市類型別原単位の推移

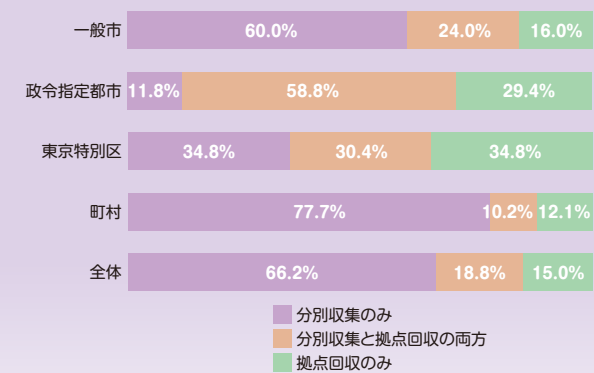


紙パックの市町村回収は
分別収集方式や拠点回収方式
で実施されています。

市町村回収の紙パック回収方式には、分別収集方式と拠点回収方式があります。分別収集とは各戸やステーションからの回収で、拠点回収は公民館の回収ボックスなどからの回収です。

紙パックを回収している市町村を都市類型別にみると、一般市と町村で分別収集方式が多く、政令指定都市と東京特別区では拠点回収方式が多くなっています。

都市類型別・回収方式の比率



取り組んでいます! リサイクル

大阪府大阪市

取組事例

大阪市では、これまで環境事業センターでの受付回収や、区役所等の公共施設に回収ボックスを設置し、紙パックの回収を実施してきましたが、平成25年10月からは古紙・衣類の分別収集を全区で開始(平成25年2月から6区で先行実施)し、紙パックについても収集対象品目としたところ。紙パック回収量は、拠点回収が211トン(平成24年度)、分別収集が4トン(平成25年2月から9月の先行実施分)となっています。

また、平成25年10月からは、普通ごみ収集の際に、資源ごみや容器包装プラスチック、古紙・衣類など分別対象品目が混ざっているなど分別ルールが守られていない場合、啓発シールを貼り、収集せず残置することにより、家庭ごみの分別の徹底を図っています。

資源集団回収については、活動団体への支援制度を設けて活動の活性化を図るとともに、集団回収団体が出した古紙を回収している再生資源事業者の情報提供や廃棄物等減量等推進員と連携して新規団体の立ち上げに努めています。集団回収での紙パック回収量は5トン(平成24年度)でした。

その他、紙パックやトレイなどを自主回収している店舗などを紹介する大阪市リサイクルマップをホームページに掲載し、リサイクルが行いやすい体制を構築していきます。



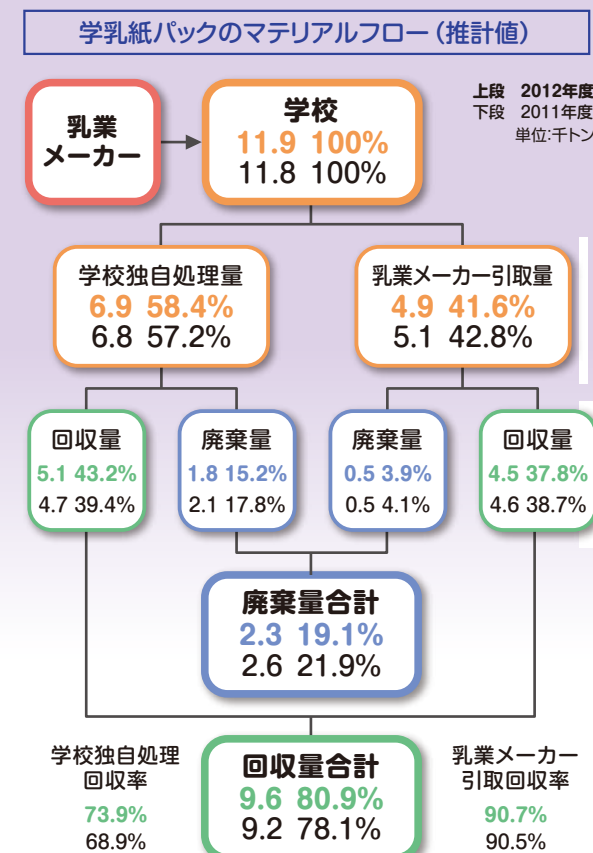


学校のリサイクル状況

学校給食用牛乳の
紙パックのリサイクルも
増加しています。

2012年度に学校給食用牛乳として供給された紙パックの総量は前年度とほぼ同じ11.9千トンでした。そのうちリサイクルのために回収された紙パックは9.6千トンで前年度より0.4千トン増加しました。

小学校では学乳紙パックのリサイクル以外にも、理科や算数などさまざまな授業での再利用や、家庭からの紙パック回収活動などが行われています。



※学校独自処理とは、学校が自治体や古紙回収業者などに直接引き渡すことを指します。
※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

取り組んでいます! リサイクル

芳賀町立芳賀南小学校

(栃木県芳賀町)

取組事例

芳賀町は、栃木県の南東部に位置し、町のほぼ中央を五行川と野元川が流れており、県内でも代表的な米どころとして知られています。近年では町の西部の台地に大規模な工業団地が造られ、多くの企業が進出しています。

芳賀南小学校は、水橋小学校、水沼小学校、高橋小学校の3校を統合して平成18年に設立されました。学級数は14学級で、児童数は289名(平成24年4月1日現在)。

牛乳パックのリサイクルは、芳賀町環境対策室の協力のもと開校時よりずっと続けられています。回収量は、1日約300パック。指定バッグに回収しています。芳賀町が推進する「輪の町はが」活動(リサイクル活動や分別方法の周知徹底、残飯の肥料化など)にあわせ、牛乳パックの回収や給食の残りの分別排出などに取り組んでいます。年に1回、廃品回収を実施、PTAに呼びかけてペットボトルや新聞・雑誌、缶類とともに牛乳パックも回収しています。「洗って、開いて、乾かして、結束する」が守られており、軽トラック半分ほどの数量が集まっており、収益は学校の児童活動費にあてています。

牛乳パックのリサイクル等によって、児童たちの環境に対する意識が高まっています。



逆さにした紙パック乾燥中!



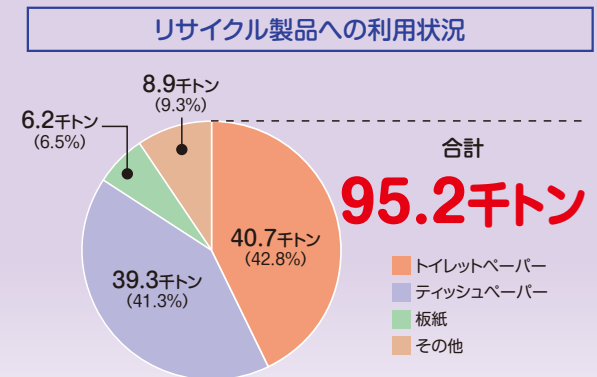
家庭からも牛乳パック回収協力

再生紙メーカーのリサイクル状況

回収された紙パックは
良質なパルプ繊維として
再生されています。

アンケートで回答を得た21社の再生紙メーカーのうち、国内で発生した紙パック損紙・古紙あるいは使用済紙パックを受け入れているのは17社でした。

2012年度の国内紙パック回収量と紙パック損紙輸入量をあわせた総受入量は118.8千トンになり、このうち約80%の95.2千トンがトイレットペーパーやティッシュペーパーなどのリサイクル製品として生まれ変わりました。紙パックは良質なパルプ繊維として、これら製品の貴重な原料になっています。



取り組んでいます! リサイクル

愛媛パルプ協同組合

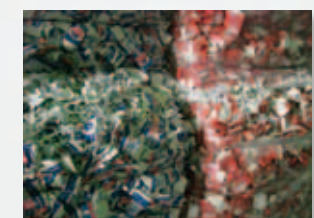
(愛媛県四国中央市)

取組事例

愛媛パルプ協同組合は、昭和44年に愛媛県下の製紙業者8社が構成員企業となり設立され、「地球にやさしい」を基本理念に古紙100%再生パルプの開発・製造をしています。また、工場が立地している川之江町は、紙・紙加工業が盛んな町で「紙のまち」として知られています。

最終製品は製造しておらず、再生パルプの形で構成員企業へ供給しています。西日本を中心に集められた古紙は、APライン240トン/日(主に事業系古紙や機密書類などを中心にパルプを製造)・MCPライン45トン/日(飲料用紙パックのみでパルプを製造)・SPライン60トン/日(コピー紙を中心に白色度が高いパルプを製造)という3種類の設備で製造され、構成員企業で家庭紙(トイレットペーパー・ティッシュペーパー)などの様々な形に変わり、再び私たちの生活に戻ってきており、まさに「紙から紙を作る」リサイクルの輪を実践しています。

特に牛乳パックを100%利用した再生パルプ(MCP)の開発により、天然パルプに匹敵する品質を有する最高級の再生パルプとして、従来の天然パルプとの置き換えなど、更なる再生パルプ生産体制の確立が期待されています。



集められた紙パック



山積みのMCP



飲み終わった紙パックは上質な資源。
リサイクル製品に生まれ変わります。

紙パックは環境負荷の少ない容器※

1000mlの紙パック1枚当たりのCO₂排出量は、32.4gと環境負荷の少ない容器です。
1000mlの紙パック1枚のリサイクルは、CO₂排出量23.4gの削減につながります。

※出典は環境省請負調査(財)政策科学研究所「平成16年度容器包装ライフ・サイクル・アセスメントに係る調査事業報告書」

回収業者・古紙問屋

紙パックを選別して、再生紙メーカーに輸送します。

リサイクル製品に



再生紙メーカー

ラミネート部分を取り除き、原紙部分を再溶解します。この時インクに残りなどを除いて、きれいなパルプに作り上げて、トイレットペーパーなどのリサイクル製品にします。

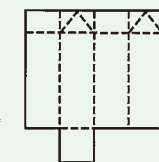
紙パックのリサイクル

紙パック

紙パックとは、牛乳容器、乳飲料容器、ジュースなどの容器で内側にアルミのないものをいいます。



- ① 洗って
- ② 開いて
- ③ 乾かして



回収

回収方法には、スーパーなどの店頭回収、市町村回収、市民団体などによる集団回収や学校などでの回収があります。

洗って

開いて

乾かして

つかう

木はムダなく使われます。

伐採された木は、主として建材や家具として利用されます。間伐材の細いものや建材の端材、枝をチップにして、紙の原料として利用します。針葉樹は繊維が長く、紙パックの加工や強度保持に適しています。

端材や間伐材

チップ

製紙メーカー



建材の集積場所



建材や家具材

そだてる

管理された健康な森は、大気中の二酸化炭素をよく取り込み、酸素を排出します。



森林のライフサイクル

50～100年のサイクル

紙パックの原料は枯渇しません。

紙パックの原料となるのは、北米や北欧の主に針葉樹です。これらの森林は、森林認証などで管理され、伐採、幼苗の植え付け、育成が計画的に行われています。北米の針葉樹は約50～80年、北欧では約70～100年、間伐などをして管理、育成されます。

うえる



母木から種子を採り、幼苗生育場で大量に育て、伐採した土地に計画的に植え付けていきます。

ACEの新しいホームページが
立ち上がりました!

ACE(The Alliance for Beverage Cartons and the Environment)は、ヨーロッパの飲料用紙容器メーカーのテトラパック社、コンビブロック社、エロパック社と、原紙メーカーであるコースナス社、ストラエンソ社で構成されています。

ヨーロッパの飲料用紙容器メーカーや原紙メーカーが、再生可能、リサイクル可能、そして低炭素なパッケージングソリューションなど環境面における飲料用紙容器の評価や分析をする上で、業界としてのプラットフォームとなっています。環境関連の様々なステークホルダーやパートナーとの関係が強いため、EUの政策、法律、基準設定などに専門知識を提供しています。



飲料用紙容器の業界動向や環境との連携など、探している情報が容易にかつ魅力的に提供できるように、レイアウトの改良などで使い勝手の良いデザインに作り上げました。

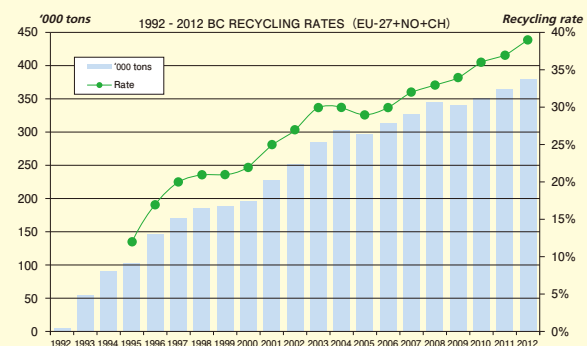
出典：ACEホームページ <http://www.ace.be/>

ヨーロッパ全体での
飲料用紙容器リサイクル率は
2012年に40%に到達!

飲料用紙容器のリサイクルは、2012年にEUで40%に達しました。これは、2011年のデータに対して3ポイントの増加であり、飲料用紙容器リサイクル率向上という業界の継続的な取組の成果です。EUでの総回収率(リサイクルとエネルギー回収)は、69%に達し、ノルウェー、スイスを含むヨーロッパ全体では、リサイクル率39%、総回収率70%に達しています。

『1992年にはリサイクルされた使用済み飲料用紙容器は6,000トン、2012年には約38万トンに増加しており、過去20年のリサイクル率の進展に大変喜んでいます。飲料用紙容器メーカーは紙容器リサイクルを発展させるために、ヨーロッパ中の回収システムの立ち上げの支援に積極的に参加しています。』とACEのカテリーナ・モリン事務局長は言っています。

リサイクルは、間違いなく支持を得ている廃棄物管理の方法。ヨーロッパ資源有効利用に対するEUのロードマップに定められた循環型経済に近づくという委員会のビジョンに沿って、欧州全域での取組を目指しています。



飲料用紙容器は、主に75%が紙、21%がポリ、4%がアルミニウムという構成になっています。使用済み飲料用紙容器からリサイクルされた紙の繊維は、とても高品質です。そうした再生紙の特性が、また新たな別の紙容器に再生される上で大変重要な役割を担っています。リサイクルされた紙容器のポリやアルミニウムも、屋根瓦の様な複合素材製品から工業原材料まで多岐にわたり、様々な用途の需要があります。

日本の飲料用紙容器リサイクル製品は、トイレトーパーなどの家庭紙が中心、ヨーロッパでは板紙から紙箱や紙袋などが主なりサイクル製品です。



●全国牛乳容器環境協議会のあゆみ ■全国牛乳パックの再利用を考える連絡会のあゆみ ★連携強化活動

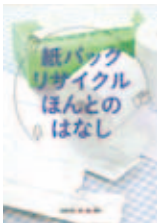
年度	あゆみ	関連法規の動き
1984年	■もののたいせつさを子どもたちに伝えたいと山梨県の主婦グループが牛乳パックの再利用運動を開始	
1985年	■「全国牛乳パックの再利用を考える連絡会」発足	
1992年	●「全国牛乳容器環境協議会」設立 ■「牛乳パック再利用マーク」決定	
1993年	●林野庁主催「森林の市」に出展(以降2008年まで毎年出展)	●環境基本法制定
1995年	●「飲料用紙容器(紙パック)リサイクルの現状と動向に関する基本調査」開始	●容器包装リサイクル法制定
1996年	●「飲料用紙容器リサイクル協議会」発足	
1997年	■牛乳パック回収システム全国事例調査の実施	●容器包装リサイクル法施行
1998年	●学校給食用牛乳パックのリサイクル推進モデル事業を開始(北海道) ■学校給食用牛乳パック等の回収・再商品化システム構築のための実験プロジェクトの実施(福岡、兵庫) ■飲料用紙容器の回収促進のための懇親会の開催(開催場所*1)	
1999年	★牛乳パックリサイクル促進地域会議の開催(継続開催*1)	
2000年	●紙パック識別マーク自主制定 ●飲料用紙パックのリサイクル促進意見交換会開始(継続開始)	 ●容器包装リサイクル法完全施行 ●循環型社会形成推進基本法制定 ●資源有効利用促進法制定
2001年	★牛乳パック回収拠点拡大運動の展開(回収ボックスを各地域へ提供)	 ●グリーン購入法等制定
2002年	●全国牛乳容器環境協議会10周年記念シンポジウム開催 ★牛乳パック回収拠点10,000か所拡大活動開始 ●紙パックのライフサイクルアセスメント(LCA)調査開始(継続実施)	 ●自動車リサイクル法一部施行
2003年	北米における紙パックLCA調査実施	 ●容器包装リサイクル法見直し審議開始
2004年	●環境キャンペーン開始(毎年の環境月間、3R月間に実施) ★牛乳パックリサイクル講習会の開催(継続実施*2) ●国内最大級の環境関連展示会「エコプロダクツ2004」出展(毎年継続出展)	
2005年	●紙パックの回収率目標2010年度50%以上を設定 ●容器包装の3R推進のための自主行動計画を公表(飲料用紙容器リサイクル協議会) ★子ども向け環境教育用ホームページ「牛乳パックン探検隊」開設 ●啓発展示用「メッセージBOXキット」提供開始 ★西播プロジェクト(地域回収システム構築) ★北欧における紙パックLCA調査	



あゆみ

会員一覧

●全国牛乳容器環境協議会のあゆみ ■全国牛乳パックの再利用を考える連絡会のあゆみ ★連携強化活動

年度	あゆみ	関連法規の動き	
2006年	■ 全国パック連20周年記念集会	 全国パック連20周年記念集会	●容器包装リサイクル法改正・立法化
2007年	●「プラン2010飲料用紙パックリサイクル行動計画ー回収率50%に向けてー」策定発刊 ●環境月間の主要行事「エコライフ・フェア2007」に出展（毎年継続出展） ■「環の縁結びフォーラムー全国パック連情報交流会ー」協賛（毎年継続開催） ★牛乳パックリサイクル出前授業開始（継続実施*3） ★牛乳パック回収拠点拡大運動のさらなる展開（20,000か所目標）	 エコライフ・フェア2007出展	
2008年	●洞爺湖サミット記念環境総合展2008出展 ★飲料用紙容器へのCTMP採用問題対応会議		
2009年	★書籍「紙パック宣言」出版		
2010年	★DVD「牛乳パックン探検隊」制作 ★第1回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」（韓国ソウル開催）		
2011年	★冊子「紙パックリサイクルほんとはなし」発行 ★紙パックリサイクル韓国出前授業指導者講習会開催（韓国） ★回収ボックス配付20,000か所達成 ●「プラン2015飲料用紙パックリサイクル行動計画」策定・発刊 ●容器包装の3R推進のための第二次自主行動計画を公表（飲料用紙容器リサイクル協議会） ●「牛乳」のPCRとして認定 ★第2回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」（大阪開催） ■「牛乳パック再利用マーク普及促進協議会」設立	 紙パックリサイクルほんとはなし	
2012年	●容環協運営新組織発足（総務・支部組織・広報・イベント委員会） ★第3回「日韓乳加工産業環境経営フォーラム」（韓国慶州開催） ★北欧における紙パックLCA調査実施 ■「環の縁結びフォーラムー再生可能エネルギーへの取り組みー」 ★商業施設でのワークショップ開催「三越銀座（東京）」	 北欧森林管理の視察	●容器包装リサイクル法見直し審議開始
2013年	●容環協創立20周年記念シンポジウム開催 ★冊子「もったいないものがたり」発行 ★商業施設でワークショップ開催「アリオ橋本（相模原市）」「ララガーデン長町（仙台市）」 ■「環の縁結びフォーラムー容器包装のリサイクル効果と課題ー」	 容環協創立20周年記念シンポジウム	●小型家電リサイクル法施行

※1 牛乳/パックリサイクル促進地域会議の開催地（1998年～2013年）

北海道、函館、青森、岩手、宮城、福島、山形、新潟、長野、滋賀、群馬、蕨、さいたま、千葉、茨城、東京都（北部地区）（東部地区）、昭島、神奈川、横浜、桑名、春日、静岡、岐阜、石川、福井、三重、愛知、大阪、京都、兵庫（神戸・阪神地区）、明石、島根、岡山、広島、徳島、愛媛、高知、福岡、大分、佐賀、熊本、沖縄

※2 牛乳/パックリサイクル講習会の開催地（2004年～2013年）

旭川市、札幌市、さいたま市、渋谷区、品川区、江東区、中野区、北区、西東京市、横浜市、相模原市、大月市、甲府市、筑西市、日進市、大阪市、西宮市、松山市、高知市、別府市、那覇市

※3 牛乳/パックリサイクル出前授業の実施校（2007年～2013年）

須賀川市立阿武隈小学校、富山市立新庄小学校、筑西市立伊讃小学校、芳賀町立芳賀南小学校、茂木町立茂木小学校、太田市立中央小学校、鴻巣市立赤見台第一小学校、川口市立戸塚南小学校、渋谷区立加計塚小学校、横浜市立日枝小学校、平塚市立岡崎小学校、大和市立渋谷小学校、駒ヶ根市立赤穂小学校、北杜市立武川小学校、浜松市立浜名小学校、金沢市立泉野小学校、垂井町立岩手小学校、神戸町立神戸小学校、日進市立東小学校、日進市立西小学校、南伊勢町立南島東小学校、名張市立美旗小学校、岸和田市立城東小学校、大阪市立弁天小学校、大阪市立鶴町小学校、西宮市立高木小学校、尼崎市立若葉小学校、広島市立安佐南区大町小学校、広島市立牛田新町小学校、広島市立仁保小学校、広島市立温品小学校、三豊市立大見小学校、三豊市立松崎小学校、吉野川市立上浦小学校、高知市立鴨田小学校

団体会員（4団体）

一般社団法人 日本乳業協会
一般社団法人 Jミルク
一般社団法人 全国農協乳業協会
全国乳業協同組合連合会

飲料用紙容器メーカー（7社）

日本製紙（株）
日本テトラパック（株）
石塚硝子（株）
大日本印刷（株）
凸版印刷（株）
北越パッケージ（株）
東京製紙（株）

乳業メーカー（133社）

【北海道】

よつ葉乳業（株）
サツラク農業協同組合
北海道保証牛乳（株）
新札幌乳業（株）
くみあい乳業（株）
北海道乳業（株）
（株）函館酪農公社
（株）北海道酪農公社
（株）町村農場
倉島乳業（株）
（株）豊富牛乳公社

【青森県】

萩原乳業（株）

【岩手県】

不二家乳業（株）
大船渡乳業（株）

【宮城県】

東北森永乳業（株）
古川乳業（株）
山田乳業（株）
みちのくミルク（株）
東北グリコ乳業（株）

【山形県】

富士乳業（株）
（有）後藤牧場
奥羽乳業協同組合

【福島県】

酪王乳業（株）
東北協同乳業（株）
会津中央乳業（株）
松永牛乳（株）
福島乳業（株）

【茨城県】

茨城乳業（株）
トモエ乳業（株）

いばらく乳業（株）
関東乳業（株）

【栃木県】

酪農とちぎ農業協同組合
栃酪乳業（株）
針谷乳業（株）
栃木明治牛乳（株）
栃木乳業（株）
ホウライ（株）乳業事業本部

【群馬県】

榛名酪農業協同組合連合会
東毛酪農業協同組合
群馬牛乳協業組合

【埼玉県】

森乳業（株）
西武酪農乳業（株）
埼玉酪農業協同組合
大沢牛乳（株）

【千葉県】

古谷乳業（株）
千葉北部酪農農業協同組合
千葉酪農農業協同組合

【東京都】

雪印メグミルク（株）
（株）明治
森永乳業（株）
協同乳業（株）
グリコ乳業（株）
小岩井乳業（株）
コーシン乳業（株）

【神奈川県】

タカナン乳業（株）
横浜乳業（株）
近藤乳業（株）
足柄乳業（株）
（株）協同牛乳

【長野県】

八ヶ岳乳業（株）
（有）松田乳業

【新潟県】

新潟県農協乳業（株）
原田乳業（株）
（株）塚田牛乳
（株）佐渡乳業

【富山県】

となみ乳業協業組合
黒東乳業

【石川県】

アイ・ミルク北陸（株）

【福井県】

森永北陸乳業（株）

【岐阜県】

飛騨酪農農業協同組合
（有）牧成舎

関牛乳（株）

美濃酪農農業協同組合連合会

【静岡県】

清水乳業（株）
いなさ酪農業協同組合
函南東部農業協同組合
東海明治（株）
朝霧乳業（株）

【愛知県】

名古屋牛乳（株）
みどり乳業（株）
中央製乳（株）
豊田乳業（株）
（有）愛知兄弟社
常滑牛乳（資）
昭和牛乳（株）

【三重県】

大内山酪農農業協同組合

【京都府】

平林乳業（株）
京都農業協同組合酪農センター

【大阪府】

泉南乳業（株）
日本酪農協同（株）
高田乳業（株）
ビタミン乳業（株）
（株）いかるが牛乳

【兵庫県】

兵庫丹但酪農農業協同組合
淡路島酪農農業協同組合

【鳥取県】

大山乳業農業協同組合

【島根県】

木次乳業（有）
安来乳業（株）
（有）養益舎

【岡山県】

オハヨー乳業（株）
梶原乳業（株）
蒜山酪農農業協同組合
岡山西農業協同組合

【広島県】

山陽乳業（株）
東洋乳業（株）
広島協同乳業（株）
チチャス（株）

【山口県】

やまぐち県酪乳業（株）
防府酪農農業協同組合
西本牧場

【香川県】

四国明治乳業（株）

【愛媛県】

四国乳業（株）

【高知県】

ひまわり乳業（株）

【福岡県】

ニシラク乳業（株）
オーム乳業（株）
永利牛乳（株）

【長崎県】

島原地方酪農協同組合

【熊本県】

熊本県酪農業協同組合連合会
熊本乳業（株）
球磨酪農農業協同組合
阿蘇農業協同組合
（資）堀田功乳舎

【大分県】

九州乳業（株）
下郷農業協同組合
（有）古山乳業

【宮崎県】

南日本酪農協同（株）

【鹿児島県】

鹿児島県酪農乳業（株）

【沖縄県】

沖縄明治乳業（株）
沖縄森永乳業（株）
（株）マリヤ乳業
（株）八重山ゲンキ乳業
元気生活（株）
（株）宮平乳業

賛助会員（13社）

王子エコマテリアル（株）
西日本衛材（株）
（株）日誠産業
日本製紙クレシア（株）
大和板紙（株）
信栄製紙（株）
丸富製紙（株）
（株）山田洋治商店
（株）クレスコ
ミードウエストペーコ・アジア（株）
マスコー製紙（株）
ストウラ エンソ ジャパン（株）
ウェアーハウザー・ジャパン（株）

（平成25年10月末現在）



乳業メーカーと紙容器メーカーが協力し、
牛乳等の紙容器にかかわる環境保全に取り組んでいます。

全国牛乳容器環境協議会



紙パック回収をしている回収団体のみなさまへ

学校・自治体・公共施設、商店や銀行、郵便局など、
回収ボックス設置のお願いに回ると同時に、定期的
に回収できるシステムを作っていきましょう。回
収先がわからない時は、地元自治体・行政窓口にお
問い合わせください。

お問い合わせは下記まで

〈全国パック連事務局〉
TEL. 03-3360-1098 FAX. 03-3360-7090
〒164-0003 東京都中野区東中野4-6-7-201